

昭和40年1月20日第1種郵便物認可 昭和44年8月1日印刷 通巻100号 昭和44年8月1日発行 毎月一冊

NO.100 THE KOBEKKO
AUGUST 1969

★郷土を愛する人々の雑誌★

神戸っ子



8

MIKIMOTO

まろやかな光沢をたたえたミキモトパールの一粒一粒がさわやかなかな夏の装いを 美しく仕上げるおしゃれのポイントです



御木本真珠店

神戸店 三ノ宮 神戸国際会館 Tel 22-0062

大阪支店 堂島 新大ビル Tel 363-0247

大阪 阪神・高島屋・松坂屋・阪急

本店 東京 銀座4丁目 Tel 535-4611 ©1969

ある詩人

たたばくぜんと かねて胸算用もなく
ましてゼニがほしい 女がほしい
という顔もしないで
そしらぬ顔をする
そんな詩人がいた



★ ★ ★
いつでも、どこでも、世界の味を!!

出張パーティーのご用命はオリエンタルホテル外商課へ

神戸・生田・京町 TEL (33) 8111 内線(263)

Imported Drugs & Proprietaries - Household & Kitchen Needs - Cosmetics &

Magazines - Toys - General Sundries-Dog & Cat Needs

Wrapping Papers - Stationery - Accessories - Candies & Foods - Books &

AMERICAN PHARMACY

—アメリカン・ファーマシー—

神戸市生田区下山手通3丁目36

STORE HOURS : 9:00-7:00(Reg) 11:00-6:00(Holiday)

KOBE : TOR ROAD, IKUTA-KU TEL(39)1384-5224 (33)1352
TOKYO : NIKKATSU BLD., CHIYODA-KU TEL(271)4034

Toiletries - Baby Needs - Greeting Cards



●神戸つ子'69—石井多幾子・前島雅子 バレリーナ カメラ・米田定蔵

静かな湖面に影をうつす二羽の白鳥。チャイコフスキイの音楽が聞こえてくるような優雅なひとときだ。

二羽の白鳥は、石井多幾子さん(26)と前島雅代さん(19)昨年の兵庫県洋舞家協会の合同公演の成功から、今年は

19

「白鳥の湖」全曲を上演することになった。八月二十一

日と二十二日の両日、主役のオデット姫にこの二人が選ばれたわけ。古典バレーのきわめつけの「白鳥の湖」にいどむだけに、意欲と緊張と不安が入りまじっているという。石井さんは、馬場美智子バレーリ研究所で十三年、「静かな踊りが好きです」と内に闘志を秘め、前島さんは、東浦千沙子バレーリ研究所で七年、「荷が重いのですが……」と可憐に語った。

（写真はいつも修法ヶ原にて 左写真 右石井・左前島さん）



あなたの佳き日に

タサキ・パール

田崎真珠

本社
神戸
戸
店
新
聞
会
館
秀
品
店
内
東
京
都
中
央
区
銀
座
西
6
—
5
ビル
ト
ン
店
東
京
ヒ
ル
ト
ン
ホ
テ
ル
内
オ
ー
タ
ニ
店
ホ
テ
ル
ニ
ュ
ー
オ
ー
タ
ニ
内
タ
サ
キ
一
タ
ニ
店
東
京
都
港
区
赤
坂
1
—
3
—
1
7
札
幌
店
札
幌
パ
ー
ク
ホ
テ
ル
内
パ
ー
ル
フ
ア
ー
台
神
戸
市
灘
区
六
甲
台
町
2
4
細
工
場
東
京
都
市
野
津
町
暖
沢
前
3226
山
口
県
奄
美
大
島

あなたの真珠はパール・マークのお店で
日本真珠小売店協会加盟店



TASAKI PEARLS

神戸つ子'69

根津耕一郎

（建築家）

カメラ・米田定蔵

文明を包容する千里丘陵は、環境デザインのメッカである。万国博本部ビルは、緑の中で機能性を發揮する。根津耕一郎。神戸大学建築科を卒え、七年前に建築事務所を開く。以後、西脇市民会館、市役所、奥道後のホテルなど、全国的に活躍。万博本部ビルの競技設計入選のニュースは、ニューヨークで知る。

光風展には十年間出品したとあって、絵の方も玄人。その油彩の暖かい感覚が、現代建築のクールな素材に適合して新たな現代を創造するところに、建築的感動があるようだ。神戸には、斜面を生かした都市づくりが必要ですね、と神戸への愛着を語る。

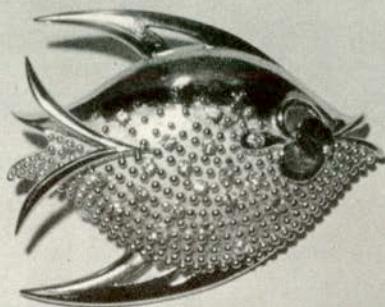
昭和八年、須磨生まれ。宝塚在住。

（写真・根津建築事務所にて）



Tajima
宝飾店 タジマ

K18ルビーダイヤブローチ
K18ルビーダイヤブローチ
帯留メ兼用



確信を持ってタジマの眼が選んだ宝石の名品・確信を持ってタジマの眼が選んだ宝石の名品



元町・TEL 33 0387・2552

タジマでは、宝石の鑑定を無料でご相談に
応じておりますので、お気軽にご利用ください

VIKING CLUB

★ある集い★
文学サークル



同時刻、東京でも例会を持つ
という二十年の歴史を誇るヴァ
イキングクラブだが、どない撮
つても写真にならへんで、とい
うだけ個性が強烈だ。

五十名近い同人と一三〇名の
会員の批評に耐える作品が、次
々と誌上を賑わし、文学を振り
動かす起動力となつてゐる。

写真右から

井口浩(大阪)山田稔(京都)

清水幸義(東大阪)鳥巣貞子(神戸)

宇江敏勝(和歌山)直木美穂子(奈良)

島京子(神戸)上垣青二(尼崎)

安光奎祐(尼崎)山根久代(芦屋)

藤本次郎(豊中)福田紀一(大阪)

藤井弥生(京都)高橋勝利(芦屋)

後列・右から
廣重聰(芦屋)谷村健一(尼崎)

津本陽(和歌山)今野和茂(芦屋)

うたい出すもの
割れる純粹性の鶴
(空谷真澄・森より)
研ぎすまされた感覚が、キラ
リと反撥して合評会が始まる。
連続する雨滴は、激しく浜芦
屋会館の縁を打ち、風雨注意報
の出た六月二九日は、表通りの
騒音を消している。

ヴァイキング二二二号の合評
会だけが、静かな息吹きを保つ
ているようだ。批評は厳しく、詩文が解析さ
れる。音が、調べが追求される





かねこ

金子真珠

●クールなパール

太陽が灼けつくアスファルト。ノースリーブからむきだした小麦色の腕に、大胆なデザインのパール・ブレスレットは、深海に眠る自然のクールな輝やきが、さわやかな夏のあなたを創ります。

★写真のパールブレスレットは、金子オリジナル。シルバーに金張りでパールをちりばめた大胆な作品。

¥43,500円

おしゃれをリードする……

金子真珠

東京=東京都中央区銀座7丁目8-5 金城ビル

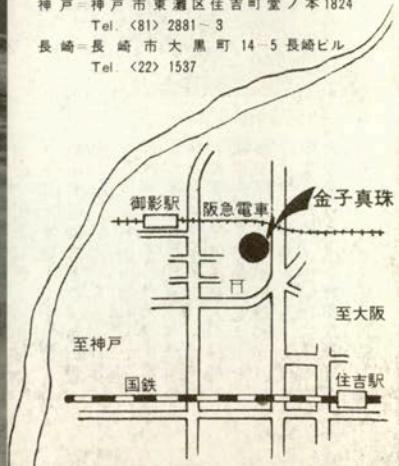
Tel. <573> 1775

神戸=神戸市東灘区住吉町堂ノ本1824

Tel. <81> 2881-3

長崎=長崎市大黒町14-5 長崎ビル

Tel. <22> 1537





コウベ・スナップ

17年ぶりに帰国した神戸出身の国際画家
菅井汲さんを囲む会



神戸生れの国際画家菅井汲
(すがい・くみ)さんが、十七年ぶりにパリから帰国した
のを機会に、関西の友人が集まり「菅井汲さんを囲む会」を
六月十四日西宮甲陽園「はり
半」で開いた。
吉原治良、泉茂、伊藤邦輔
早川良雄、津高和一、井上寛
造、乾由明、村松寛、鈴木敬
元永定正、亀田正雄、十河巖
白髪一雄、向井修二、吉原英
雄、吉田稔雄、吉原通雄、大
山昭子氏など現代美術に活躍
する人々、ジャーナリストな
ど百人が、緑の美しい「はり
半」の庭園で、くつろいだ菅井
さんを開み歓談した。
なお京都国立近代美術館で
「菅井汲展」が六月二十日より八
月三日まで開催中である。

☆☆☆☆☆ ご進物最適品



LANGUE DE CHAT
KOTOBUKI CONFECTIONERY



お菓子のコトブキ 神戸市生田区北長狭通1-19 TEL神戸(078)-39-8681

ラングドシャはフランス語の猫の舌.....
ソフトでかわいいイメージから生まれた
風味ゆたかなクッキー風のお菓子です
コトブキでは いちはやくフランスから
独自の製法技術をとり入れ どこよりも
評判のよいラングドシャをつくりあげました
サクッとした歯ざわり お口にひろがる
とろけるようなフレッシュバターのまろやかな
風味と香り いくら口にしてもあきない
おいしさです とくに若い人たちのあいだで
どんどん人気を集めている新しいタイプの
お菓子です

コトブキ *
ラングドシャ



これは神戸三愛する人々の手帖です
あなたのくらしに新しい夢をおくる
神戸を訪れる人々にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の手帖です

● 神戸っ子8月号目次

表紙 小堀良平／構成 石坂春生

Second Cover・書高相一

神戸っ子'69 撮影 米田定義

3

①石井多幾子・前島雅子②根津耕一郎

1

ある無い／「ヴァイキング」

7

コウベ・スナップ 菅井茂美さんを開き会

9

わたしの意見／竹中能

13

れんさい隨想③トアロード哀愁 林田重五郎

15

随想／神戸あれこれ 丸谷才一

18

隨想／東京三十年・神戸二十年・福富貴一

20

ヨーロッパ一人旅 パリ・ニース・小泉康夫

23

ある無い・その足あと／「ヴァイキング」

27

経済人座談会／改革の命脈体制を…

28

経済ホカット・ジャーナル

32

100号記念特集 ①愛蔵して100号になりました

35

神戸の變いから

38

技術・ジャーナル 諸國博矩

40

神戸のアーバンデザイン／水谷頼介十

43

神戸のモダーンリビング／チームJUR

46

CINEMA 40 神戸の映画人／瀧川長治

48

エライコト二ナリマシタ！／森木一夫

51

オートバイ旅行記④／大迫嘉昭

52

動物園開業日記録／鬼井一成

55

ヨーロッパのオーダーシャツ／河崎保

57

おしゃれたいむ／秋の紳士シャツ

58

100号記念特集② あの人あの言葉
元町タウン・ジャーナル（8月）
神戸遊覧誌Ⅸ／カスミ①青木重雄
連載小説／兵庫の女（最終回）武田繁太郎
連載物語第23回・非恋愛物語／足立春一
神戸百店会だより
小堀良平／白川理／田口純子／シャン・メルオー／宮崎辰雄
カメラ／米田定義・カット／岡田淳

60

63

65

68

71

74

77

80

83

86

89

92

95

98

101

104

107

110

113

116

119

122



今月の店舗



喫茶 エフシー 5月オープン(国鉄西宮駅南)

洗練された外感とユニット成型合板壁面が好感をもたれている。ミルキーホワイトが基調色。駅前にできる喫茶店の一つの行き方として注目されている。

舶来ムード 照明の店

MOTO DEN

モトデン

本社★神戸市生田区元町6丁目2634-4196
工場★神戸市葺合区琴緒町1ノ102-38947

光のパイオニア ← → 企画から開店まで
アイデアの

神戸日建

建築設計施工 店舗改修
神戸市生田区中山手通3丁目
PHONE 22-7172・6052

KOBE
NIKKEN

★わたしの意見

ゆっくりとあゆもう
200号・300号
神戸っ子

竹中 郁
<詩人>



★神戸への愛着がつくる百号の郷土雑誌

月刊・神戸っ子も、もう百号になりましたか、百号とは驚きましたね。よく続きましたよ。私も児童詩の雑誌「きりん」を出しておって二百号を越しましたが、とにかく百号を続けるということは大変なことです。並々ならぬ努力と研鑽とがいるものです。そのことに、まず第一の敬意を表します。

第二の敬意は、だんだんと雑誌が内容、外観ともに、良く整ってきたことです。よほど、編集者、発行者に神戸への愛着がなければできることではありません。私も神戸人の一人ですが、この雑誌の評判をあちこちで耳にして肩身広く思っています。

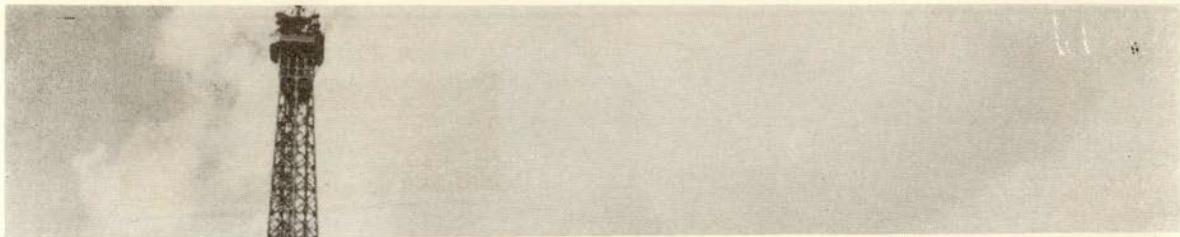
ただ、この雑誌は、他の文芸評論雑誌とちがうのですから、いくらか繰り返しということがあります。これは雑誌の性格上あたりまえのことです、この雑誌の欠点とはいえません。

神戸の街はボツボツではあるが、まあ良い方に向かっている。ただ、せっかちは日本人の悪いくせだからゆつくりの方が望ましい。日本全体のこの早い変化のテンポからはずれたって一向にかまわない。神戸の街、神戸の文化の中での、この神戸っ子という雑誌は、この調子のままでよろしいから、ますます新しい発掘を心かけて二百号も三百号も続くことを祈ります。

★郷土誌・神戸っ子のために神戸っ子としていえば…

何事においてもそうだが、雑誌を出すということは、とかく金がいるものです。小泉君は、この百号にいたるまでどうして金を集めているかしらんが、せいぜい神戸のスポンサーは、郷土雑誌・神戸っ子の小泉君のために気前よく金を出してやって下さい。私も、二百号を越した児童の雑誌の経過から、いつも金に苦しんでいたことを思い出します。小泉君の代弁でなく、神戸っ子の一人としていうのだが……

「神戸のスポンサーよ、惜しげもなく神戸っ子に金を出せ！それが君らのつとめだ」



ご旅行中は日本語で……
機内では映画や音楽を楽しめる……
エールフランスでヨーロッパ旅行へ！

AIR FRANCE

東京 大阪 名古屋 福岡
(584)1171・(501)6331・(202)6326・(541)0540・(77)6442



□れんさいすいそうⅢ

トアロード 哀愁

林田重五郎／随筆家・写真も▽



トアロード山手線の北

「神戸っ子」目出たく一〇〇号！この号は神戸で最も好きな通り、トアロードの話にしよう。

トオアロード、戦中ひどいときになると東亜ロードとしたような誤りは、いまの神戸になくなつた。トアはTOR、鳥居のことですよ、などの説明も、いまでは不要である。トアロードの北詰にトアホテルがあった。オリエンタルホテルと並び称せられていたのだが、終戦後間もなく米軍の宿舎になつていてるとき焼失した。木造の風格のあるホテルであった。そのあとはいま外人のクラブになつていてるそうだが、その広い庭に鳥居があつたように記憶する。鳥居—トアホテル—トアロードとなつたものであろう。

戦前は幅も、いまの半分くらい。貴金属店、陶磁器店、食料品店など、いまと同じように外人経営の店々が並んでいたが、露路を少し中へはいると青線の女が、薄暗のなかに立っていた。朝早い港で仕事のために、この裏町の貴金属の職人さんの家に下宿をしたことがあるが、近所の住人だと判ると、客引きの姿勢を改めて、お帰りなさいとアイサツしたものである。

朝、そのころ有名だった外人のベーカリーで、コーヒーとトーストを食べ、トアロードをコツコツ靴音をたてて下る。坂の傾斜の度合いが、神戸のどの道よりも快い。トアロードを下って職場へ行けば、一日中幸いがあるような気持さえしたものである。

いまのトアロード、道幅が広くなつて両側に歩道が出来た。そして、昔は色とりどりの日除けが店頭を飾っていたかわりに、いまは店の名を入れ

た天蓋が、ところどころ歩道に節をつけている。この感じは昔よりもはるかに良い。喫茶店、花屋さん……。生田新道を渡つて、少し上へ進んだときに驚いた。いつの間にか東側に、鉄筋のお城のようなものが出来ている。近づいて見ると神戸税務署とある。

東京の銀座が戦前ののような感じを与えないのは銀座の表通りに、銀行がニヨキニヨキ店を出したためだとは友人の説だが、通りには通りの性格がある。場違いのものが顔を出しては通りの気分をこわしてしまう。元町やセンター街にある映画館、あれはどんな気分を通りに与えているであろうか。

官庁はやはり官庁街に建てられた方がよかつたように思う。税務署のかわりに、少くとも十軒は、トアロードらしい美しい商店が並んだはずである。あのとき誰も反対意見を出さなかつたのであるうか。トアロードの粹は、市電の山手線から国鉄の高架までの間だけに、もう少し配慮をしてほしかつたと思えてならない。

◇

何年か前まで、花の名をつけた外人バーがトアロードの西側の裏町にあつた。外人バーというと十平方筋ほどの店が多いが、ここは八十平方メートルはある、広いバーだった。

正面に鏡をバックにして長いスタンドがある。その一隅で、阪急に当時のレインズ選手がときおり静かに杯をあげていた。



トアロード天蓋

ンス貴族になつたような気もしたものである。

世界諸方の異国人たちが踊つたり飲んだり楽しんでいる。スタンドの中に立つマダムは、うまい英語で、フランソア・ロゼエのような笑い顔で、店の気分を調べていたものである。

外人バーの良い点は、社用族が一人もないことである。飲む前に、現金をスタンドに置くほどだから、借金をするものもない。それにホステスも招かないと席には来ない。持つてある金の範囲で、心置きなく酒を楽しめるのは気がラクである。

ただ当然のことだが、店は外のために営業をしている。日本人が線を越えて外人同様に振舞おうとしては、店はいやがる。女性たちも迷惑がる。その点をさえ心得ておれば、店の空気も壊さずに、気分を味えたものである。

あのトアロード特有の店はどうなつたのであろうか。足を運んで見ると横に四、五層のビルが建ち、店の跡はコンクリートの駐車場にかわっていた。露地の裏町の感じはない。

外人バーの主人というのは、和服を好むやさ男風だったが、どんなわけか自分の命を断つたそうである。女性たちはどこへ住み家を移したであらうか。

トアロード、表も裏も変つてゆく。変らぬものは、あの緩やかな坂の感じだけであろうか。



トアロード高架のすぐ北

スタンドの前はチーク材のフロアである。十円玉の音楽で十組ぐらいは踊れるようになつてゐる。隅にスロットマシンがあつたが、これはギャンブルだというので、いつの間にか姿を消した。フロアを広んで、一段高くしたところに、オペラ劇場の貴賓席のような小間が並ぶ。花模様のソファとテーブル、もちろん仕切りのカーテンは掲げてあつて、フロアを眺められるようになつている。ここに坐つて飲む酒は、ちょっと小型のフラ